
西除川ブロックの河川整備の事業評価について

◎ 今回の事業評価について

1. 事業概要
2. 事業の必要性に関する視点
3. 事業進捗の見込みの視点
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点
5. その他の特記事項
6. 対応方針（原案）

今回の事業評価について

- 大阪府では、建設事業の効率性及び実施過程の透明性の一層の向上を図るため、建設事業評価を実施している。
- 河川事業・ダム事業については、大阪府河川整備審議会では事業評価を実施している。
(「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府都市整備部河川室)」)
- 西除川ブロック改修事業については、H25年度に「大和川水系西除川ブロック河川整備計画(改定)」の審議をもって事業再評価としており、再評価後5年を経過するため、H30年度に事業評価を実施するもの。

《事業評価について》

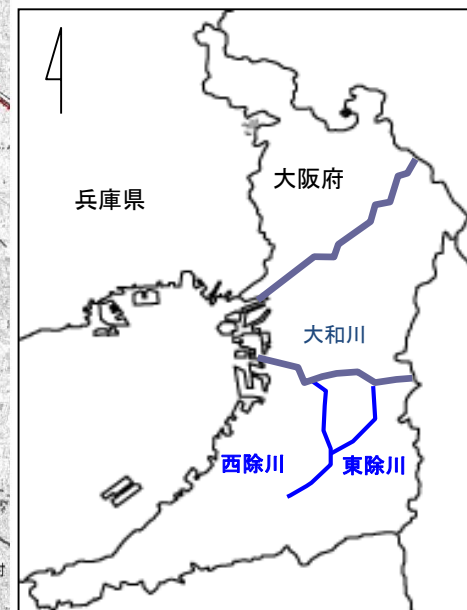
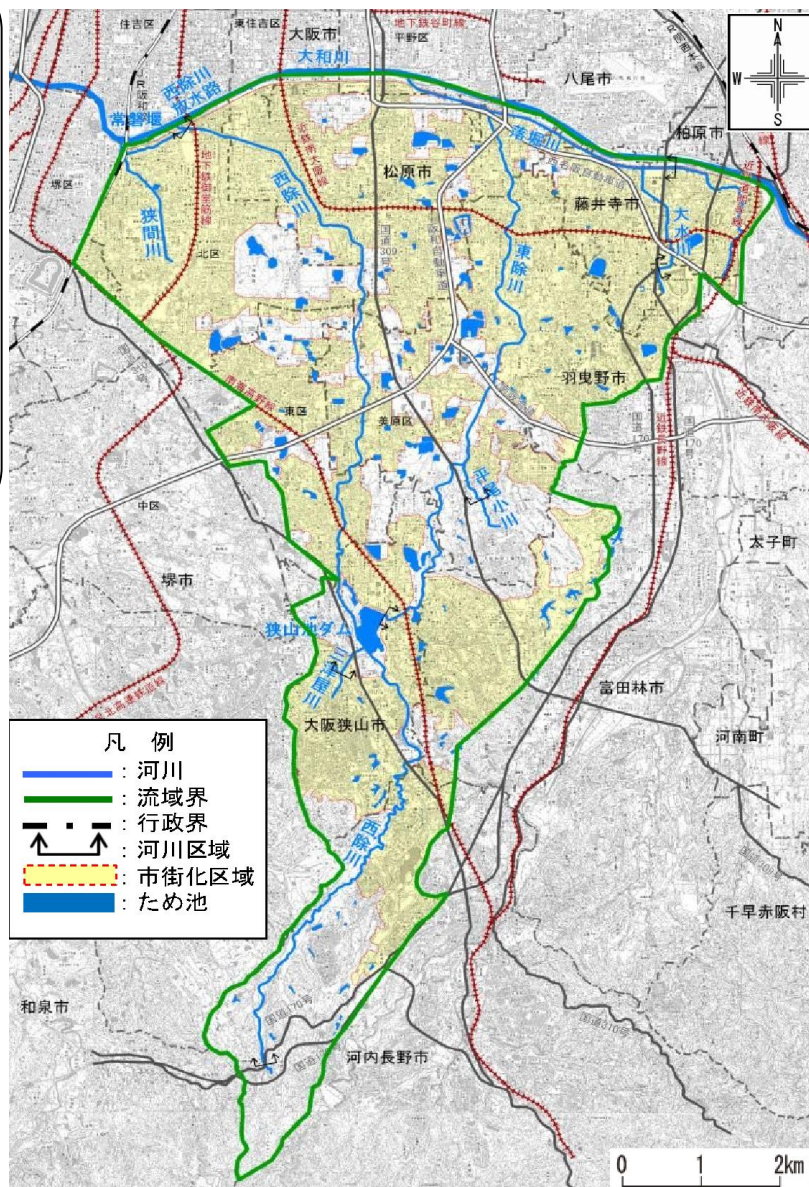
	再評価(再々評価)
目的	事業継続の妥当性を判断するとともに、より効率的な実施方法等を検討する。
対象	総事業費10億円以上の事業
評価時期	<ul style="list-style-type: none"> ・事業計画の大幅な変更……………① ・事業採択後5年未着工、事業採択後10年継続 ・再評価後5年継続毎(事業未着工のものは除く) ② ・総事業費の大幅な変更 ・その他評価の必要が生じた事業
評価の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・事業状況(事業計画等の変更及び今後の進捗見直しを含む) ・事業を巡る社会経済情勢の変化 ・費用便益分析等の効率性 ・安全・安心、活力、快適性等の有効性 ・自然環境への影響と対策
審議方法	<p>①の場合は、河川整備計画(案・変更案)の審議・了承</p> <p>②の場合は、再評価(再々評価)調査により審議</p>

※「大阪府河川事業・ダム事業の事業評価(平成28年7月 大阪府都市整備部河川室)」より抜粋

1. 事業概要

流域の概要

- 流域市: 堺市・松原市・大阪狭山市・藤井寺市・羽曳野市・河内長野市・富田林市・大阪市・八尾市
- 指定区間延長: 45.8km
- 流域面積: 94.8km²
- 流域の人口: 約75万人 (H27国勢調査に基づく)
- 下流部→市街地/中流部→丘陵地開発/上流部→自然豊か(金剛生駒紀泉国定公園に指定など)



位置図

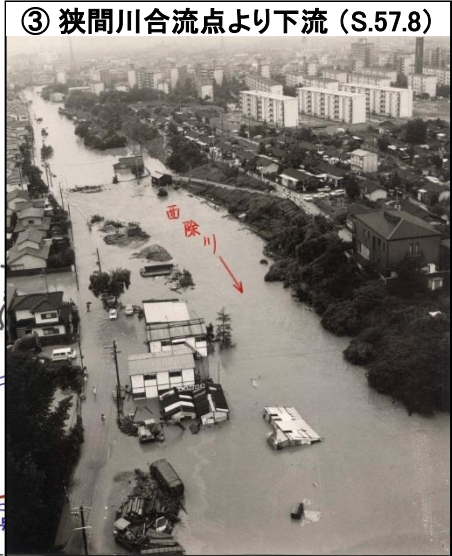
河川名	指定区間延長	流域面積
西除川 (狭山池ダム下流区域)	12.7km	26.52km ²
西除川 (狭山池ダム上流区域)	10.5km	14.13km ²
三津屋川	1.0km	3.74km ²
東除川	13.7km	36.19km ²
落堀川	3.7km	10.28km ²
大水川	2.5km	2.26km ²
平尾小川	1.7km	1.70km ²

1. 事業概要

過去の水害

昭和57年8月
西除川中下流部では、
床上浸水 1,184戸
床下浸水 1,862戸
の被害

平成19年7月
西除川中流部では、
床上浸水 1戸
床下浸水 26戸
の被害(内水)



1. 事業概要

過去の水害(平成29年10月)

①落堀川西橋下流左岸



②西除川栄橋下流左岸



③西除川天野橋上流右岸



1. 事業概要

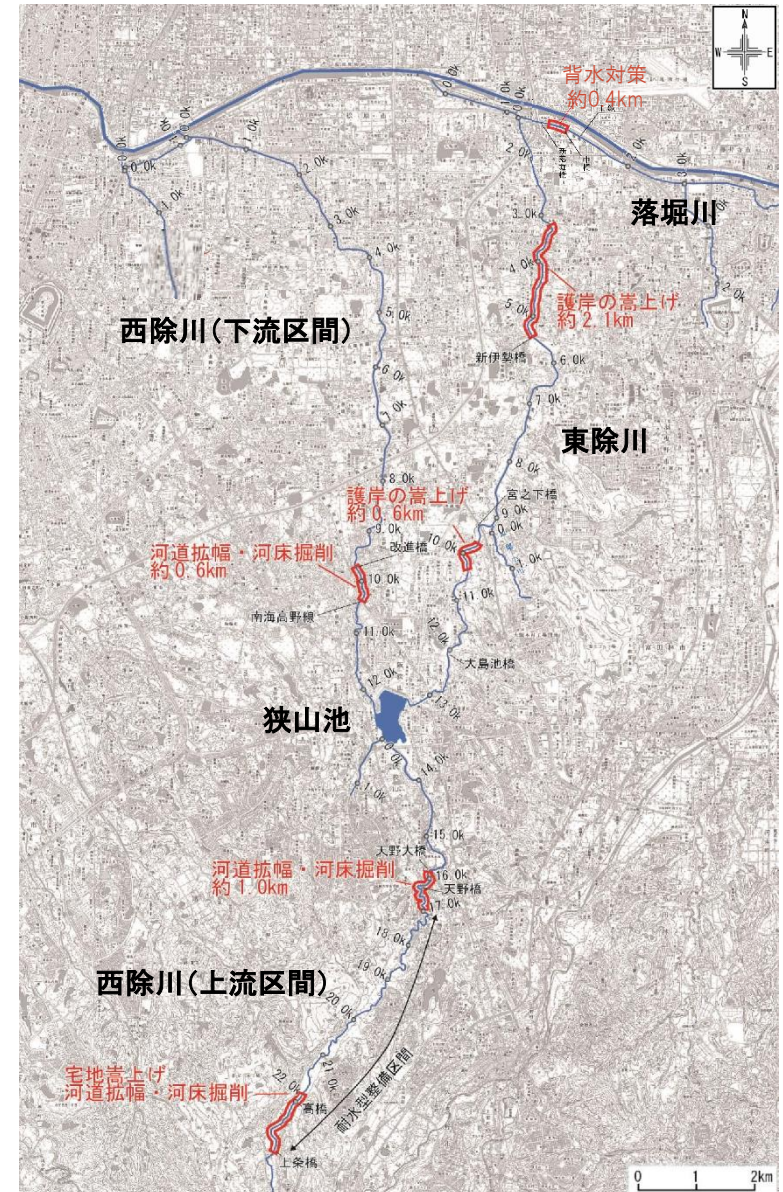
西除川ブロックの河川整備計画における主な事業内容

整備対象区間

河川名	整備対象区間	整備延長
西除川 (狭山池ダム下流区域)	改進黨下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	約 0.6km
西除川 (狭山池ダム上流区域)	草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約 1.0km
	天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約 5.7km
東除川	新高鷺橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約 2.1km
	菅生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	約 0.6km
落堀川	新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	約 0.4km

計画対象期間

- 計画策定(H25年)から概ね30年

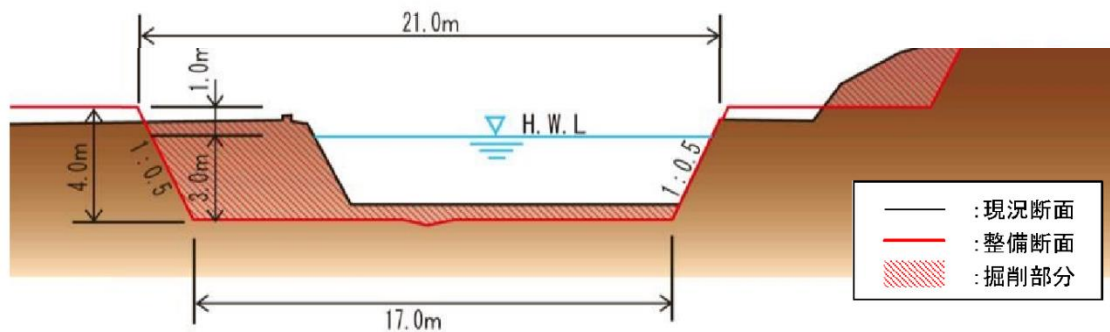
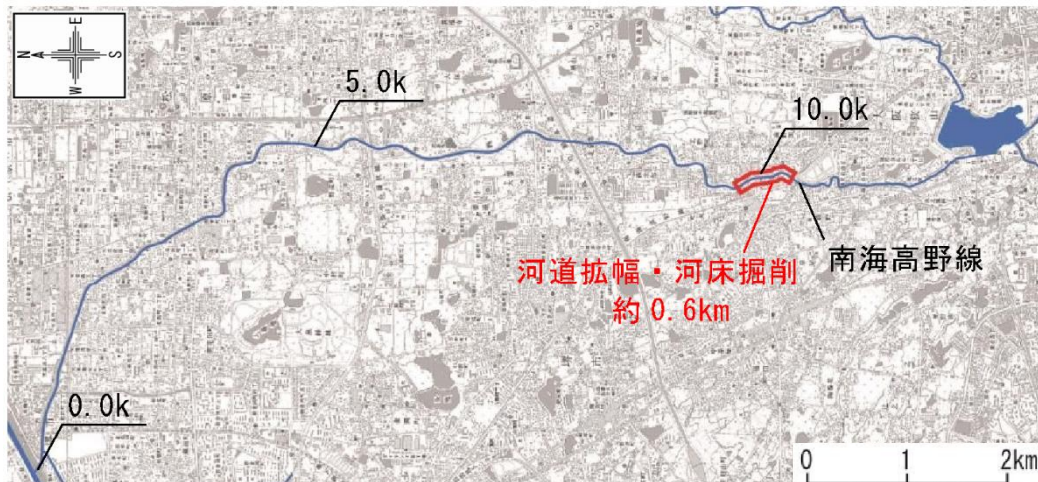


1. 事業概要

整備計画の概要

①西除川（狭山池ダム下流区域）：事業中

整備対象区間	整備延長	整備内容
改進黨下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	約 0.6km	河道拡幅及び河床掘削を行う。 河道拡幅・河床掘削の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性確保に努める。



整備断面例（10.0km地点）

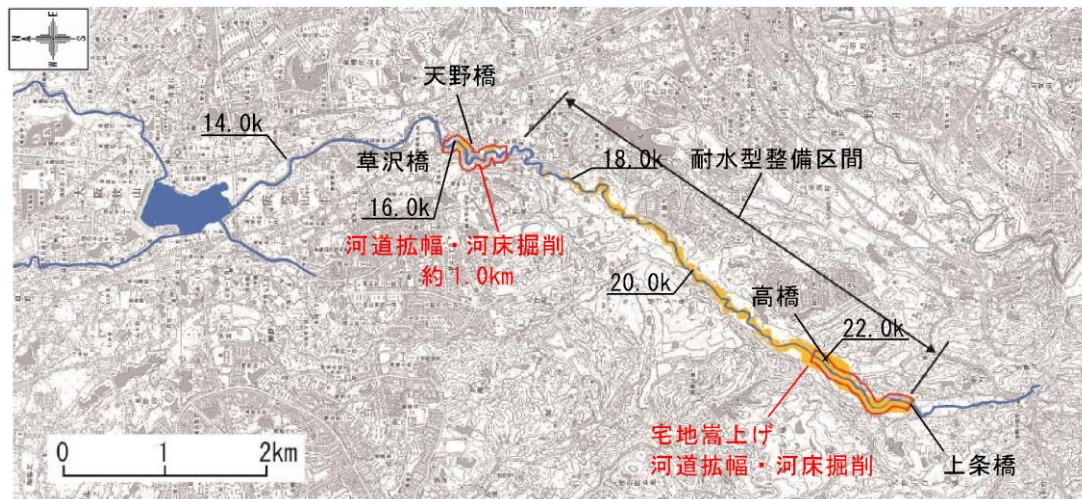
●時間雨量80mm程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。

1. 事業概要

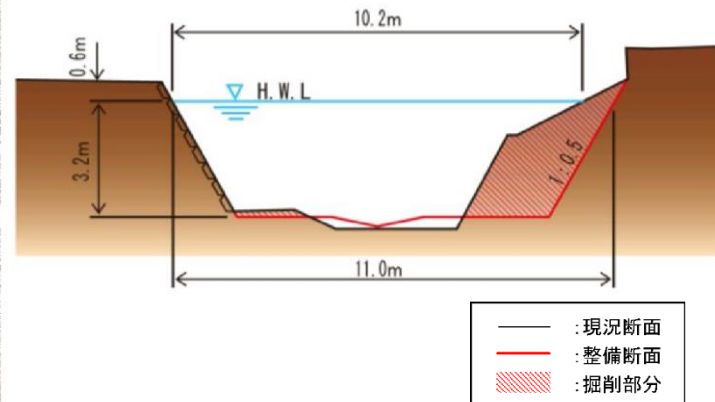
整備計画の概要

②西除川（狭山池ダム上流区域）：事業中

整備対象区間	整備延長	整備内容
草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約 1.0km	河道拡幅及び河床掘削を行う。 河道拡幅・河床掘削の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努める。
天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約 5.7km	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組むとともに、河道拡幅・河道掘削のみではなく宅地嵩上げ等のハード対策について実施する。



黄色 : 時間雨量 50 ミリ程度で浸水が想定される箇所



整備断面例（16.5km地点）

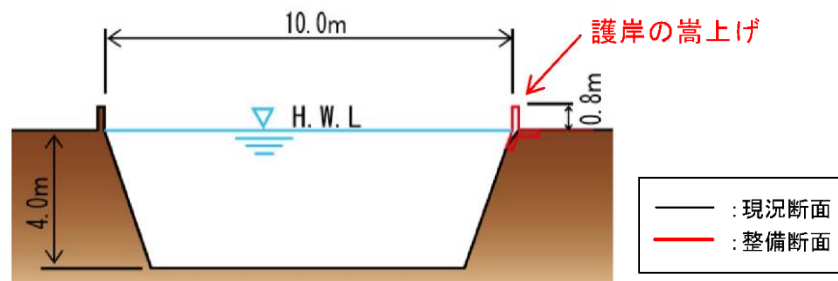
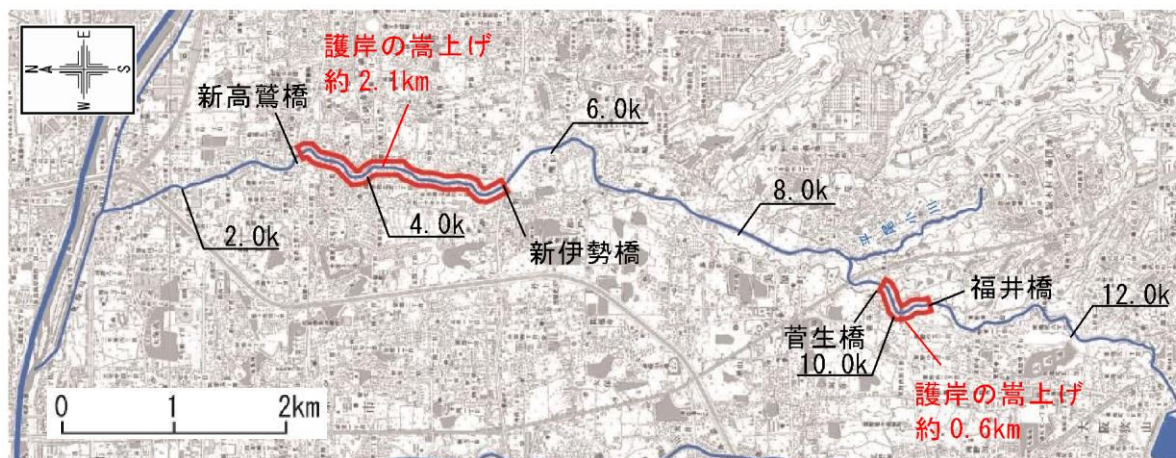
●時間雨量50mm程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。

1. 事業概要

整備計画の概要

③東除川：事業中

整備対象区間	整備延長	整備内容
新高鷺橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約 2.1km	護岸の嵩上げ等を実施する。
菅生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	約 0.6km	護岸の嵩上げ等を実施する。



整備断面例 (5.0km地点)

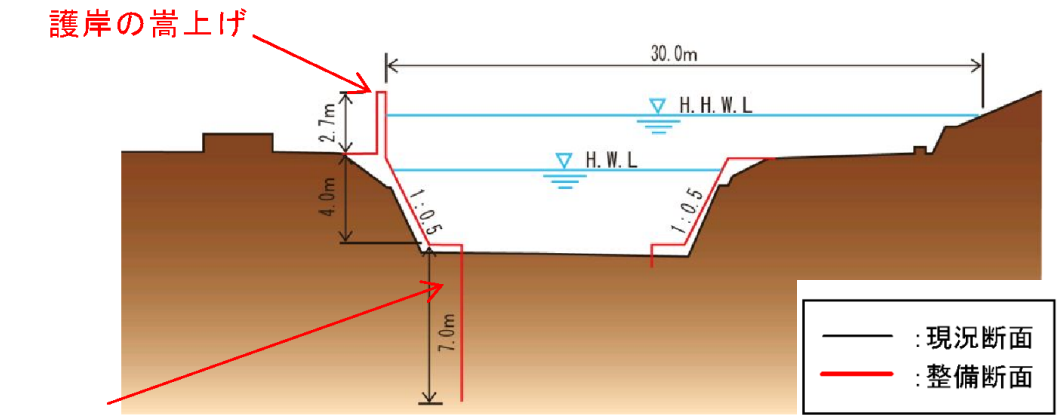
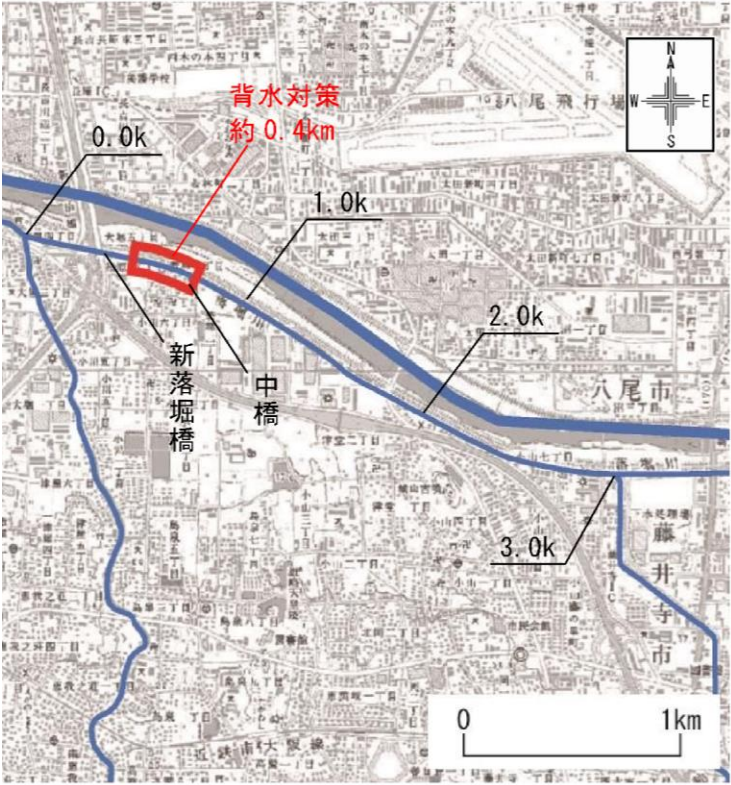
●時間雨量50mm程度の降雨による洪水を対象に整備を行います。

1. 事業概要

整備計画の概要

④落堀川：事業中

整備対象区間	整備延長	整備内容
新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	約 0.4km	大和川の背水対策として護岸の嵩上げ等を実施する。



鋼矢板圧入

H.H.W.L：大和川の背水位

H.W.L：落堀川の最高水位

1. 事業概要

事業費の変更

	区間	延長	内容	前回評価時 (H25年)	今回 (H30年)	増減
西除川 (狭山池ダム下流区域)	改進橋下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	約 0.6km	河道拡幅及び河床掘削を行う。 河道拡幅・河床掘削の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性確保に努める。	約11.37億円	約11.37億円	0円
西除川 (狭山池ダム上流区域)	草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約 1.0km	河道拡幅及び河床掘削を行う。 河道拡幅・河床掘削の際には河岸やみお筋の保全、周囲の景観との調和に配慮し、上下流の連続性の確保に努める。	約9.81億円	約9.81億円	0円
	天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約 5.7km	耐水型整備区間として、流域市と連携し、土地利用誘導および浸水が想定される土地の居住者等に対して洪水氾濫・浸水の危険性を周知し、自主的な避難行動を促す等、ソフト対策に取り組むとともに、河道拡幅・河道掘削のみではなく宅地嵩上げ等のハード対策について実施する。			
東除川	新高鷲橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約 2.1km	護岸の嵩上げ等を実施する。	約4.00億円	約4.00億円	0円
	菅生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	約 0.6km				
落堀川	新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	約 0.4km	大和川の背水対策として護岸の嵩上げ等を実施する。	約66.0億円	約66.0億円	0円

2. 事業の必要性に関する視点

社会情勢について

堺市(北区、東区、美原区)、松原市、大阪狭山市、藤井寺市、羽曳野市、河内長野市

	平成22年	平成27年	備考
人口	760,442人	746,840人	国勢調査(H22、H27) H22比 -1.79%
世帯数	299,863世帯	303,949世帯	国勢調査(H22、H27) H22比 +1.36%
事業所数	25,446所	24,945所	大阪府統計年鑑(H22、H27) H22比 -1.97%
就業者数	225,814人	217,807人	大阪府統計年鑑(H22、H27) H22比 -3.55%
高齢者人口 (全国)	176,489人 (29,245,685人)	205,852人 (33,465,441人)	国勢調査(H22、H27) H22比 +16.64%
高齢者率 (全国)	23% (23%)	28% (26%)	-

洪水発生時の影響

河川名	【事業着手時点】	【今回評価時点 H30】
西除川 (狭山池ダム下流区域)	浸水想定面積:約5.38ha 浸水家屋:約217世帯 (H25)	浸水想定面積:約1.25ha 浸水家屋:約57世帯
西除川 (狭山池ダム上流区域)	浸水想定面積:約35.44ha 浸水家屋:約67世帯 (H25)	浸水想定面積:約35.44ha 浸水家屋:約67世帯
東除川	浸水想定面積:約45.44ha 浸水家屋:約1370世帯 (H25)	浸水想定面積:約43.69ha 浸水家屋:約1308戸
落堀川	浸水想定面積:約82.69ha 浸水家屋:約1749世帯 (S61)	浸水想定面積:約1.88ha 浸水家屋:約15世帯

※河川整備基本方針で定められた100年に1度の降雨規模の浸水面積・浸水家屋数

2. 事業の必要性に関する視点

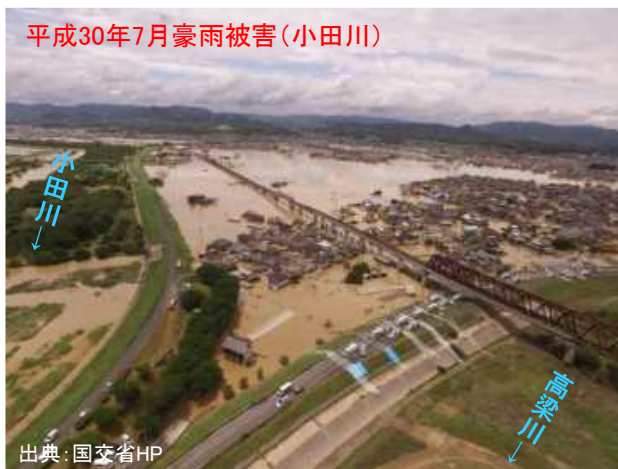
- 近年、全国的に甚大な被害が頻発しており、治水事業に対する関心が高まっている。
- 西除川ブロックにおいても昨年の台風21号にて護岸崩壊や浸水被害が発生しており、そのため、地元市からも河川改修事業の早期完成が望まれている。

被害状況(西除川ブロック)

年月	気象要因	被害状況
昭和57年8月	台風10号 豪雨	西除川中下流部において、床上浸水1,184戸・床下浸水1,862戸という甚大な被害を受けた。
平成19年7月	豪雨	西除川中流部において、床上浸水1戸、床下浸水26戸の被害を受けた。
平成29年10月	台風21号 豪雨	西除川上中流部において、護岸崩壊の被害を受けた。落堀川西橋付近において、浸水被害を受けた。

全国での近年の被害

近年の豪雨		被害状況	
平成27年9月	関東・東北豪雨 (台風第18号)	床上浸水1,925戸 床下浸水10,353戸	・鬼怒川など19河川で決壊 ・宮城県、福島県、茨城県、栃木県 を中心に浸水被害が多数発生
平成28年8月	北海道・東北豪雨 (台風第10号)	床上浸水241戸 床下浸水1,694戸	・小本川等37河川で決壊 ・北海道、青森県、岩手県、宮城県 を中心に浸水被害が多数発生
平成29年7月	九州北部豪雨	床上浸水366戸 床下浸水1,249戸	・福岡県、大分県を中心に浸水被害 が多数発生
平成30年7月	平成30年7月豪雨	床上浸水14,191戸 床下浸水20,629戸	・小田川など26河川で決壊 ・岡山県、広島県、愛媛県を中心に、 浸水被害が多数発生



2. 事業の必要性に関する視点

B/C

- 「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省河川局、平成17年4月)に基づいて、被害軽減効果を河川改修事業の効果(便益)として算出を行った。
- 被害軽減効果の算定にあたっては、費用や完成予定年の更新、評価基準年の更新、デフレータの更新を行い、B/Cを算定した。
- 被害軽減効果に治水施設の残存価値を加算し、便益とした。
- 西除川(狭山池ダム下流区域)、西除川(狭山池ダム上流区域)、東除川及び落堀川については、今回評価におけるB/Cは西除川(狭山池ダム下流区域)で1.7、西除川(狭山池ダム上流区域)で1.4、東除川で19.4、落堀川で3.0となった。

河川名	項目	前回評価時 (H25)	今回評価 (H30)
西除川 (狭山池 ダム下流 区域)	B/C	・B/C=1.8 B= 15.6億円 C= 8.9億円 建設費 8.0億円 維持管理費 0.9億円	・B/C=1.7 B= 18.9億円 C= 11.1億円 建設費 10.0億円 維持管理費 1.1億円

2. 事業の必要性に関する視点

B/C

河川名	項目	前回評価時 (H25)	今回評価 (H30)
西除川 (狭山池 ダム上流 区域)	B/C	・B/C=1.4 B= 9.4億円 C= 6.5億円 建設費 5.9億円 維持管理費 0.6億円	・B/C=1.4 B= 11.4億円 C= 7.9億円 建設費 7.1億円 維持管理費 0.8億円
東除川	B/C	・B/C=18.2 B= 67.6億円 C= 3.7億円 建設費 3.4億円 維持管理費 0.3億円	・B/C=19.4 B= 82.2億円 C= 4.2億円 建設費 3.9億円 維持管理費 0.3億円
落堀川	B/C	・B/C=3.0 B= 363.0億円 C= 122.6億円 建設費 108.8億円 維持管理費 13.8億円	・B/C=3.0 B= 441.6億円 C= 148.5億円 建設費 131.8億円 維持管理費 16.7億円

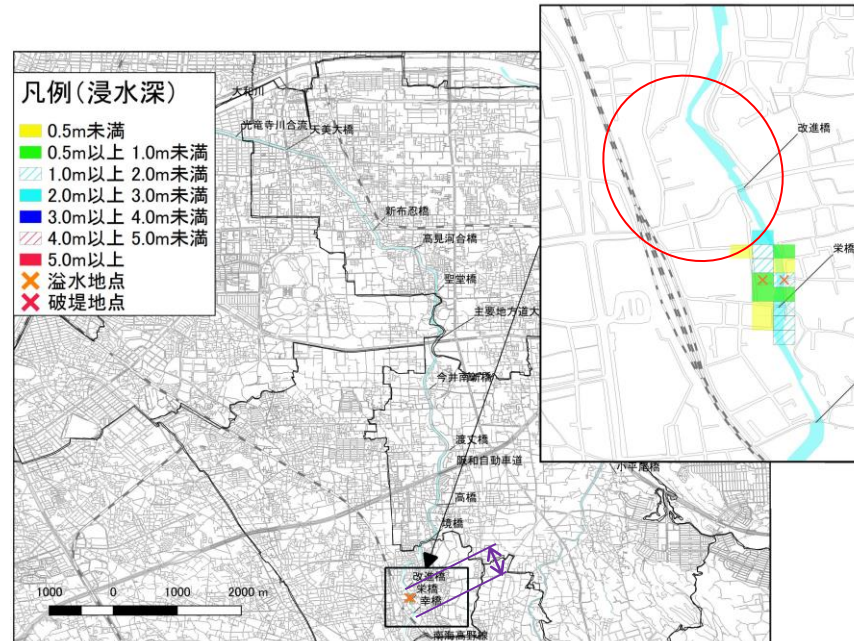
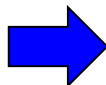
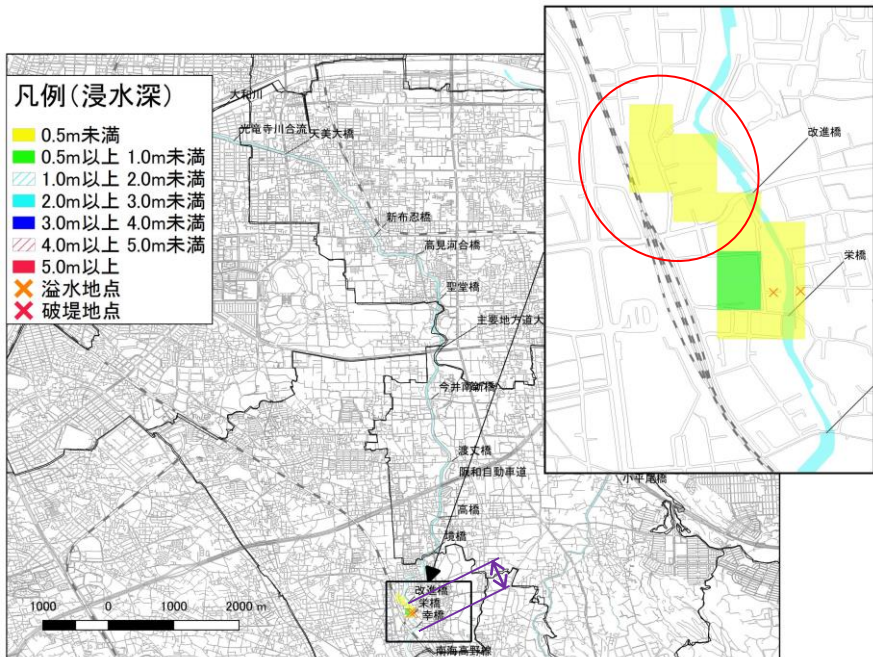
2. 事業の必要性に関する視点

【西除川(狭山池ダム下流区域)】

- ・ 栄橋付近についても、未整備区間で家屋浸水(床下)が広範囲に発生する恐れがあり、引き続き事業を実施する必要がある。

(事業着手時点)

(H30年度 現在)



※整備区間: ←→

対象降雨: 時間雨量80ミリ程度(約100年超過確率降雨)

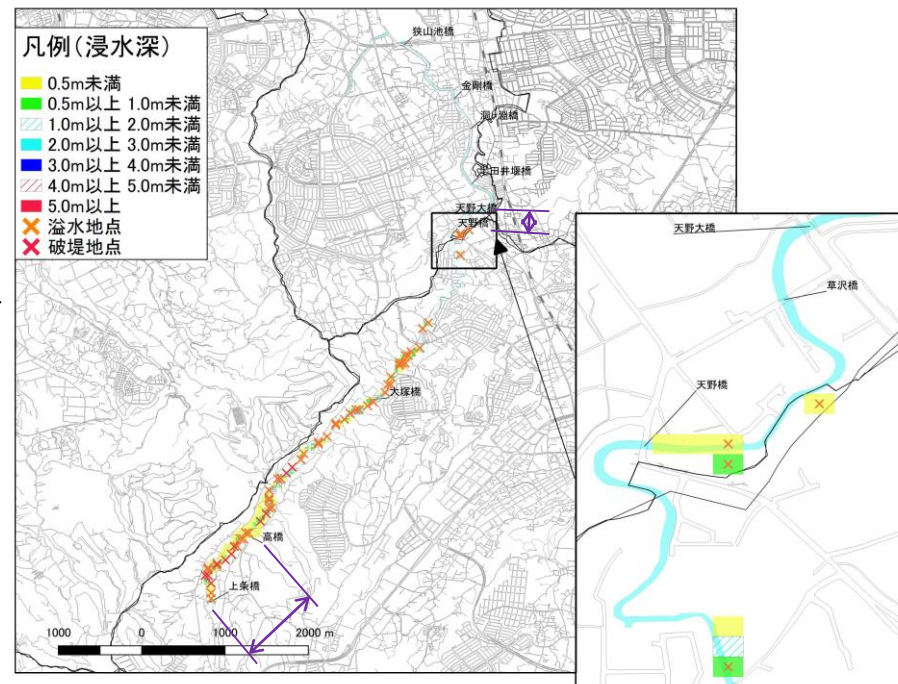
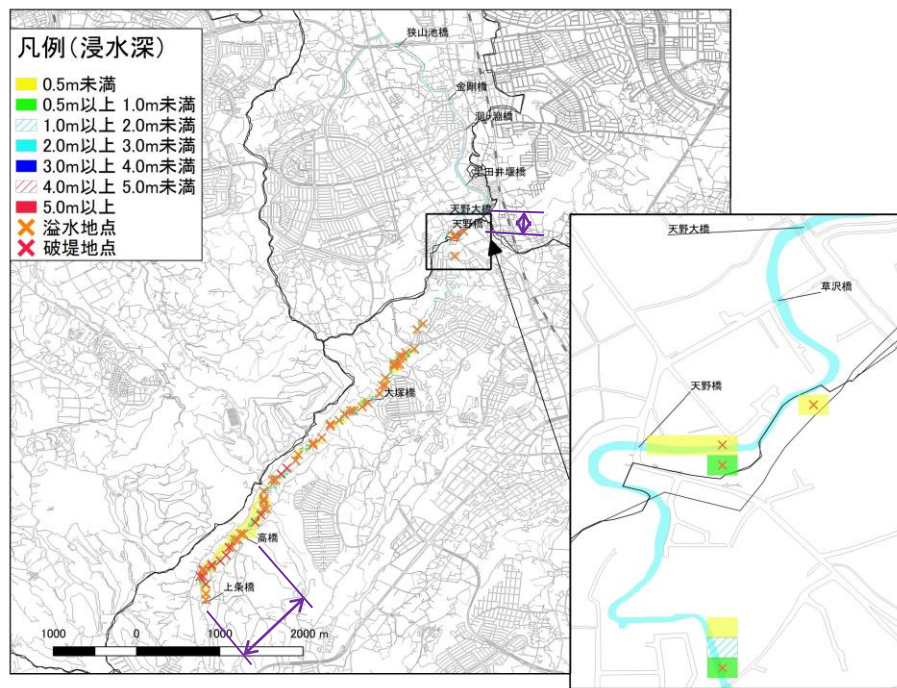
2. 事業の必要性に関する視点

【西除川(狭山池ダム上流区域)】

- 大塚橋付近から上条橋区間・天野橋付近についても、未整備区間で家屋浸水(床下)が広範囲に発生する恐れがあり、引き続き事業を実施する必要がある。

(事業着手時点)

(H30年度 現在)



※整備区間: ←→

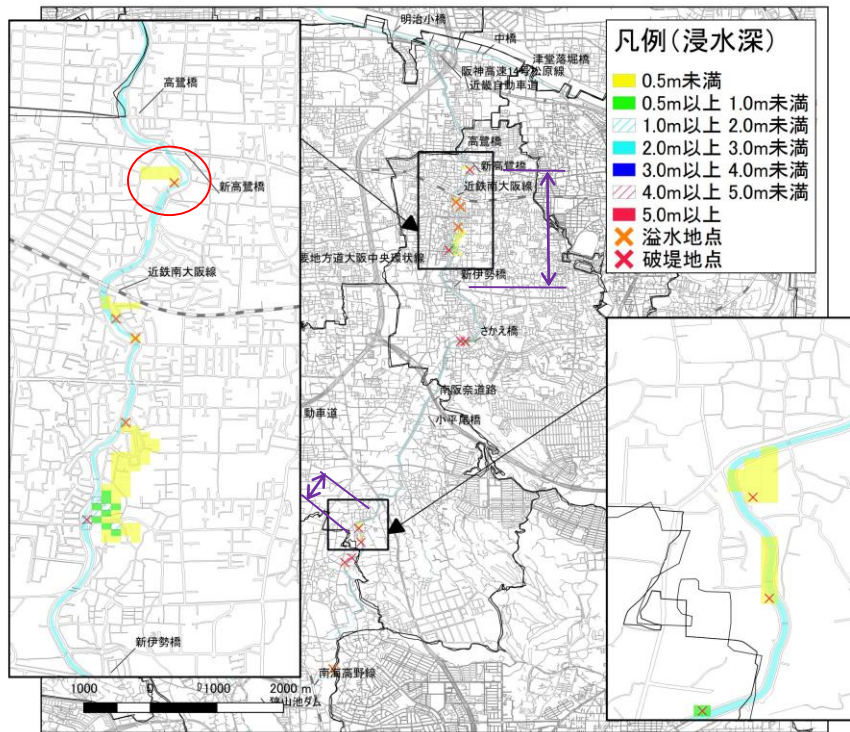
対象降雨: 時間雨量50ミリ程度(約10年超過確率降雨)

2. 事業の必要性に関する視点

【東除川】

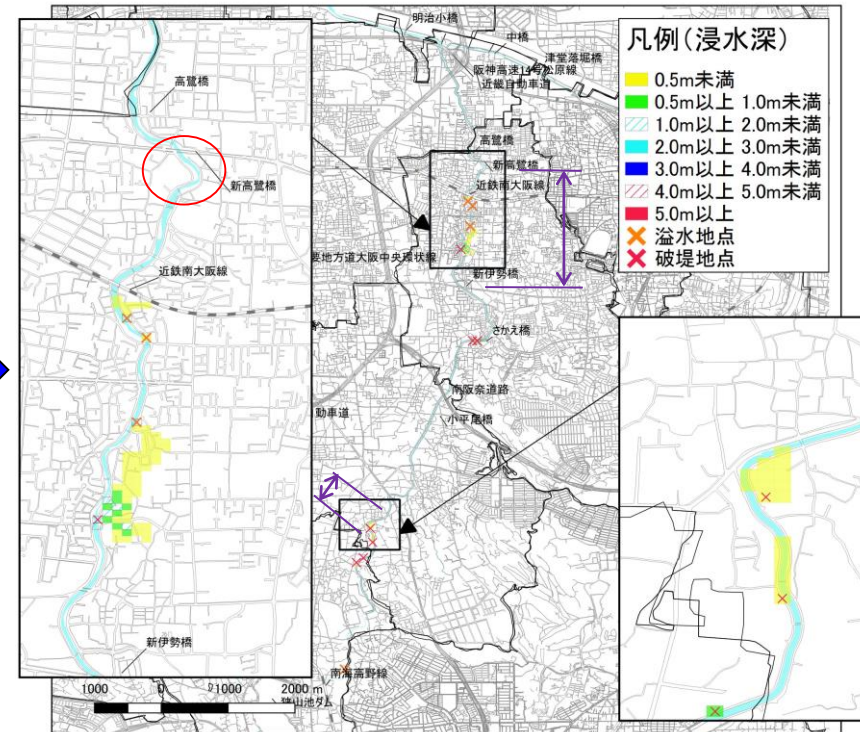
- 近鉄南大阪線付近についても、未整備区間で家屋浸水(床下)が広範囲に発生する恐れがあり、引き続き事業を実施する必要がある。

(事業着手時点)



※整備区間: ←→

(H30年度 現在)



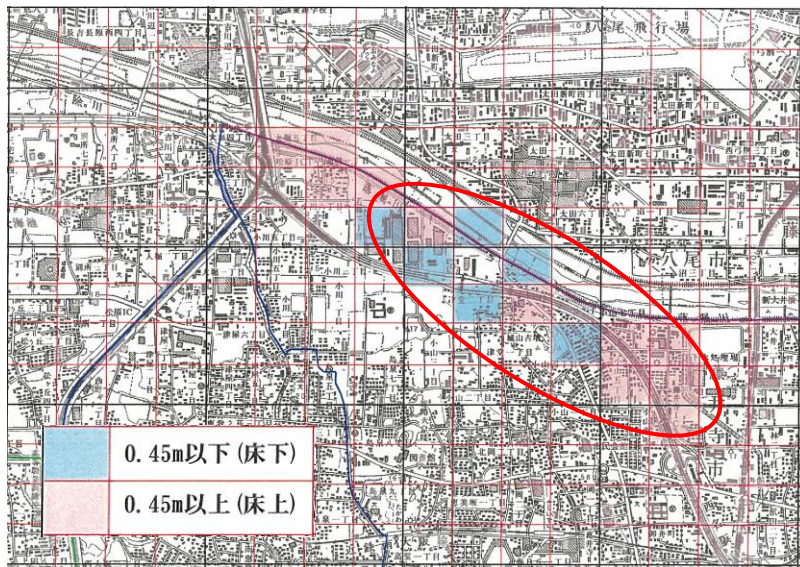
対象降雨: 時間雨量50mm程度(約10年超過確率降雨)

2. 事業の必要性に関する視点

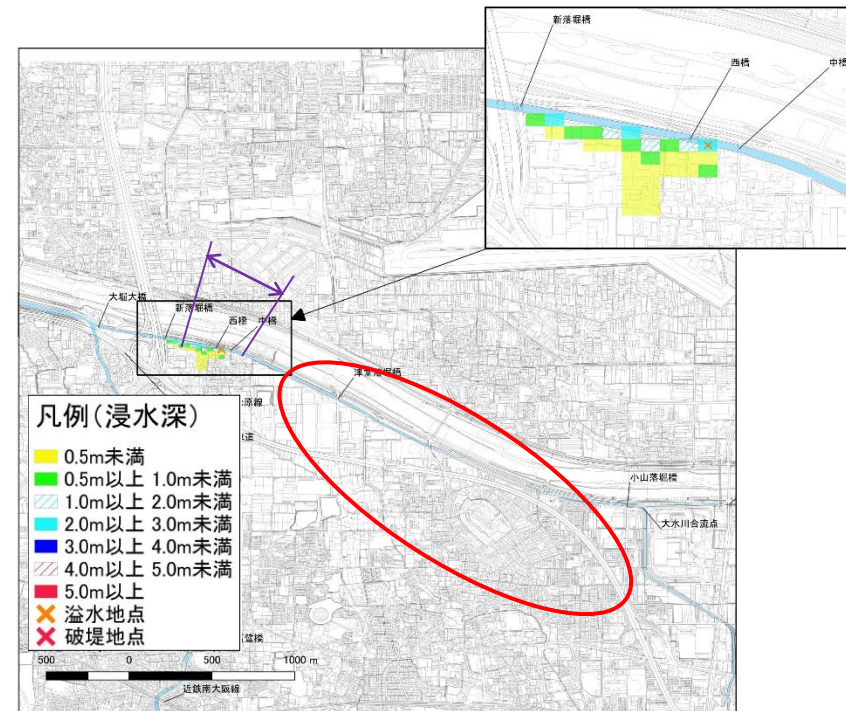
【落堀川】

- 西橋付近についても、未整備区間で家屋浸水(床下)が広範囲に発生する恐れがあり、引き続き事業を実施する必要がある。

(事業着手時点)



(H30年度 現在)



大和川の背水に対する治水安全性の確保

2. 事業の必要性に関する視点

事業効果の定性的分析【安心・安全】【活力】

【安心・安全】

- 西除川下流については、時間雨量80ミリ程度の降雨に対し、床上浸水を防ぐことを目標とし、西除川上流及び東除川については時間雨量50ミリ程度の降雨による床下浸水の発生を防ぐとともに、時間雨量80ミリ程度の降雨でも床上浸水を防ぐことを目標に、落堀川については、大和川の背水の影響による浸水を防ぐことを目標に、各々、河川整備を進め、府民の安心・安全の確保に努めている。

【活力】

- 自助、共助、公助が一体となったコミュニティを形成し、市民、事業者、行政の連携による洪水等の災害リスク低減対策の推進と災害時の円滑な避難、防災基盤の強化やハザードマップの整備等により、流域住民にとって安全な暮らしを実現し、活力あるまちづくりをめざす。



地域住民に向けた防災学習



地域住民によるハザードマップの作成



地域の小学生に向けた防災学習

2. 事業の必要性に関する視点

事業効果の定性的分析【快適性】

- 西除川下流部では、改修後の堤防道路や旧河川敷地に遊歩道や緑道を整備するなど、都市部に居住する周辺住民に貴重なゆとりとやすらぎの空間を提供。
- 西除川上流部では、旧河川敷周辺に生息するヒメボタルの保護活動や観察会が、地域の守る会を中心に行われるなど、自然環境を活かしたやすらぎの空間を提供。
- また、平成30年10月時点で8団体による美化活動が行われており、動植物の保護活動や環境整備など活発な活動が行われています。

名称	実施場所	団体名	協定締結日
アドプト・リバー・河合自治振興会	松原市	河合自治振興会	平成18年6月16日
アドプト・リバー・堀連合町会	松原市	堀町会連合会	平成20年6月19日
アドプト・リバー・野遠東	堺市	野遠東緑花を愛する会	平成20年11月7日
アドプト・リバー・三津屋川を美しくする会	大阪狭山市	三津屋川を美しくする会	平成20年12月6日
アドプト・リバー・松栄町会	松原市	松栄町会	平成21年3月30日
アドプト・リバー・新町さわやか	松原市	新町さわやかアドプト・リバー・グループ	平成21年9月15日
アドプト・リバー・西除・天美西 & 天美我堂	松原市	天美西荘園町会連合町会・天美我堂自治連合会	平成22年7月8日
アドプト・リバー・西除川ホタルランド	大阪狭山市	狭山ヒメボタルを守る会	平成23年5月27日



小学生の生物観察会 - 東代井堰付近



西除川ホタルランド - 府民協働作業



西除川光風橋上流 遊歩道整備



西除川旧河川敷 緑道整備



狭山池まつり2018

2. 事業の必要性に関する視点

事業効果の定性的分析【環境に配慮した整備事例】

①西除川新布忍橋上流 魚巢ブロック ②西除川新西除橋上流 護床工（木工沈床）



③西除川（野田井堰）魚道設置

④落堀川大堰大橋 魚巢ブロック

2. 事業の必要性に関する視点（まとめ）

- ・ 現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B／Cは西除川下流区間で1.7、西除川上流区間で1.4、東除川で19.4、落堀川で3.0であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。
- ・ 未改修区間にて洪水リスクがあることから、地元市から河川改修事業等の進捗を望まれていること、流域内の人口・資産などは大きな変化はないが、災害時要配慮者である高齢者の割合が増えていること、近年、全国的に甚大な水害が頻発している状況などから地域の治水事業に対する関心も高く、事業の必要性はより高まっている。
- ・ 西除川ブロックでは、西除川、東除川、落堀川で河道改修を進め、治水安全度の向上はみられるが、未整備区間で洪水リスクが残っており、引き続き事業を実施する必要がある。

3. 事業進捗の見込みの視点

H25年度～H29年度末までの実施状況(西除川下流区間)

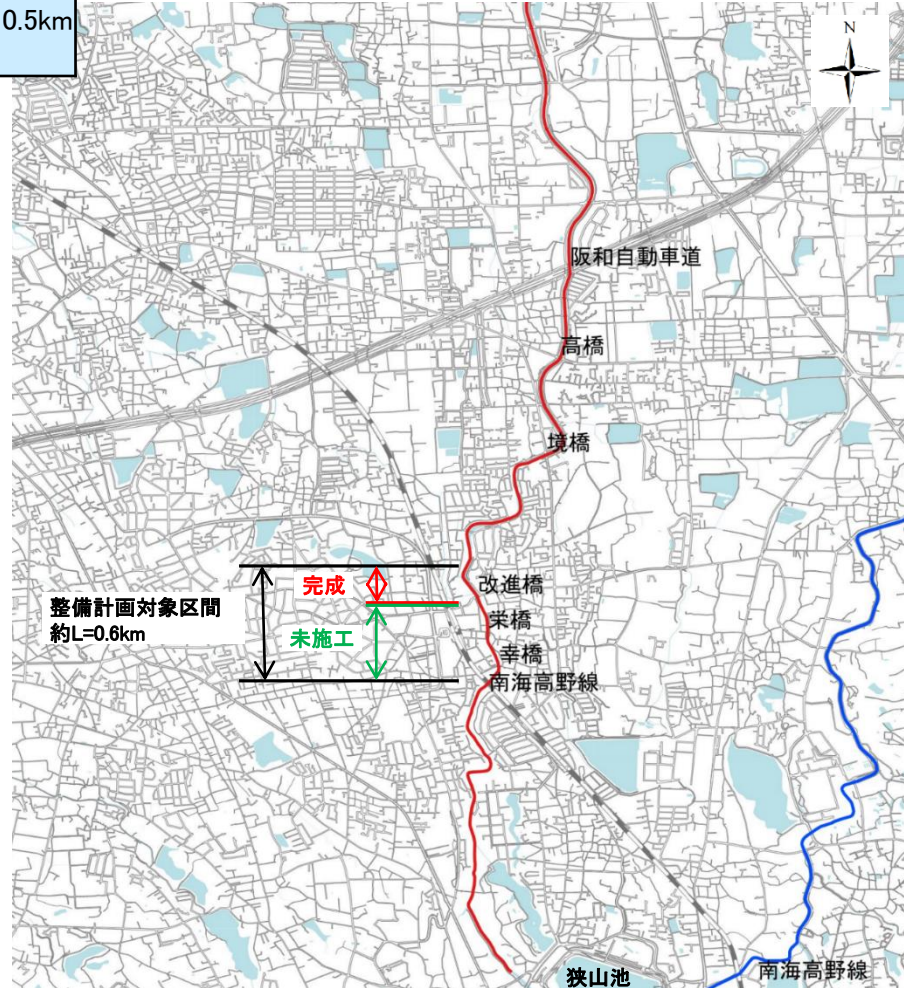
整備対象区間	整備延長	進捗延長
改進橋下流～南海高野線 (9.8km～10.4km)	約 0.6km	整備済み:約 0.1km 残工事 :約 0.5km



改修前



改修後



3. 事業進捗の見込みの視点

H25年度～H29年度末までの実施状況(西除川上流区間)

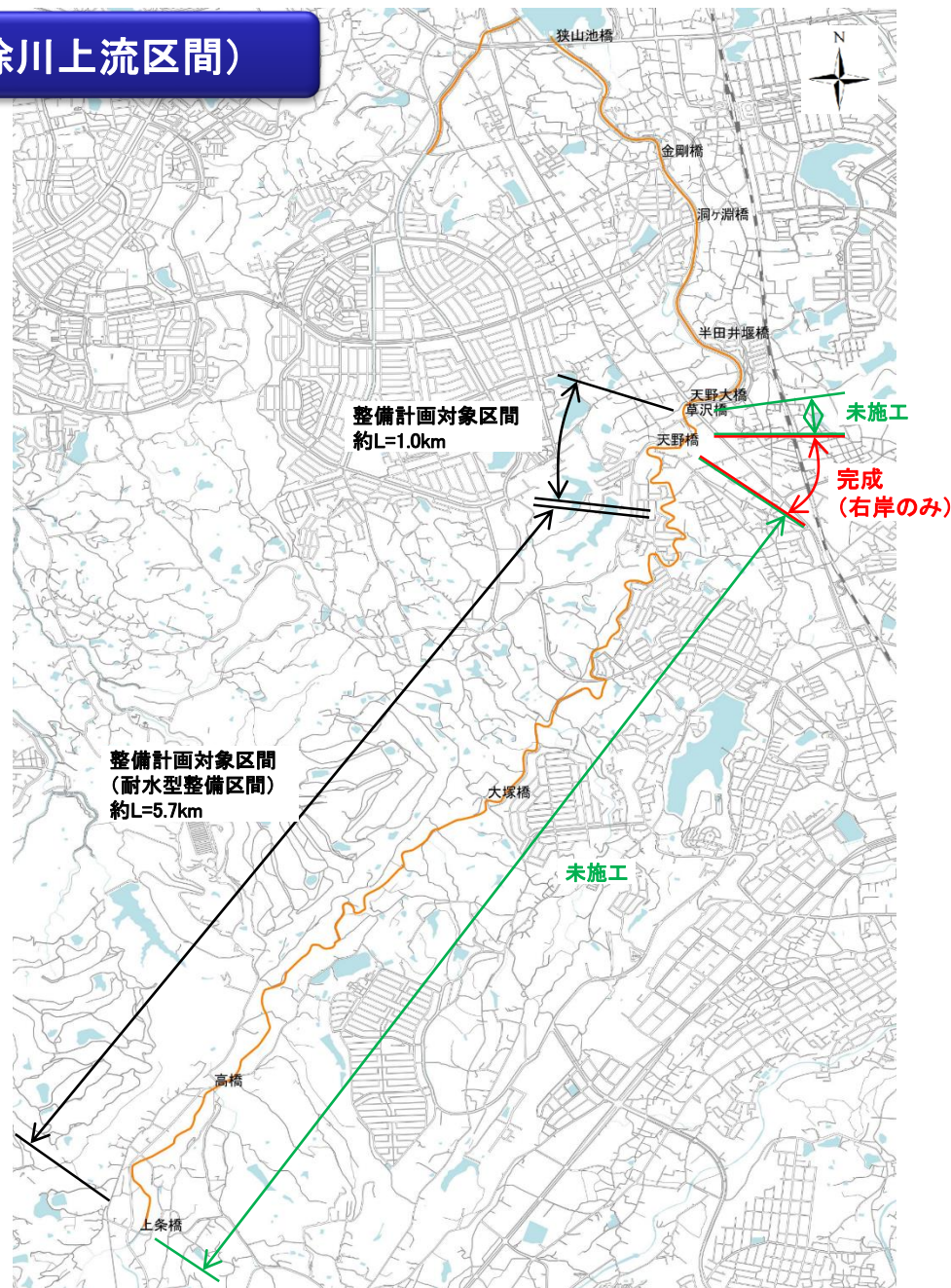
整備対象区間	整備延長	進捗延長
草沢橋～天野橋 (15.9km～16.9km)	約 1.0km	残工事 : 約 1.0km
天野橋上流～上条橋 (17.1km～22.8km)	約 5.7km	残工事 : 約 5.7km



改修前



改修後



3. 事業進捗の見込みの視点

H25年度～H29年度末までの実施状況(東除川)

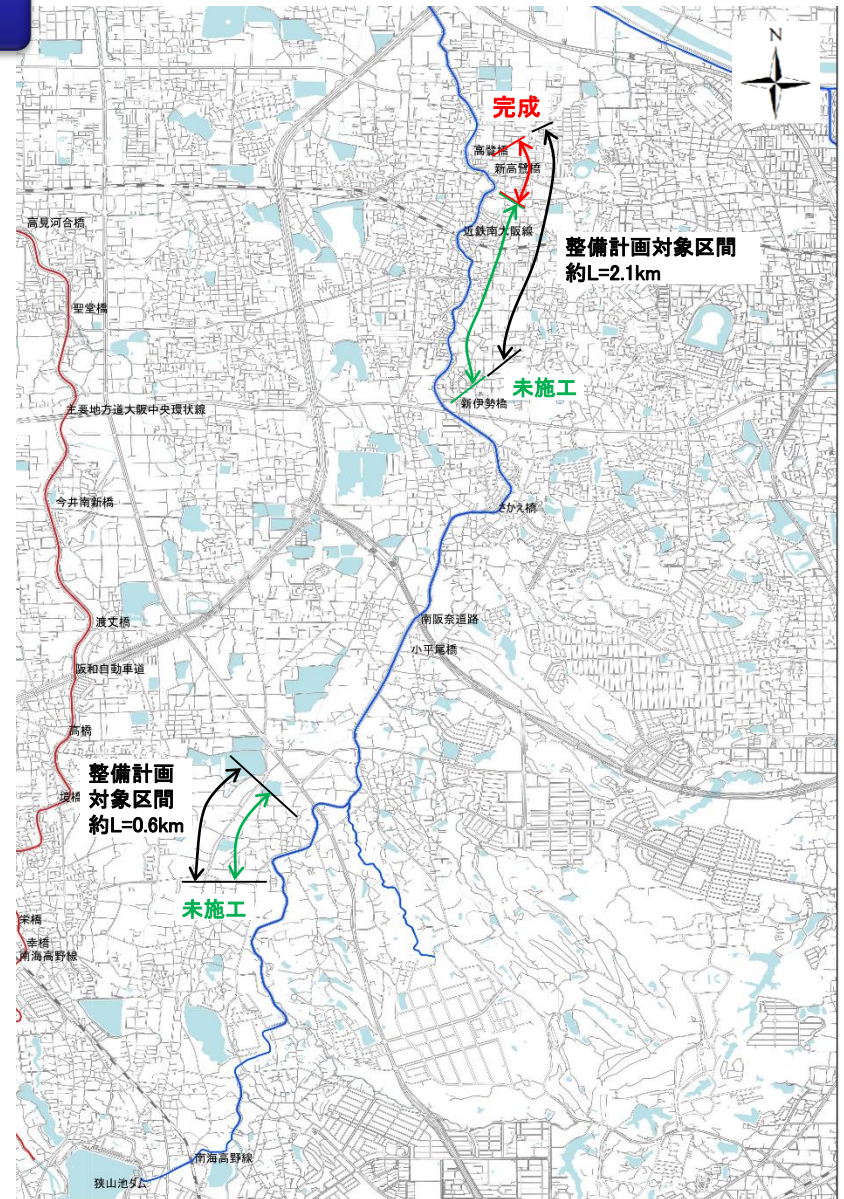
整備対象区間	整備延長	進捗延長
新高鷲橋～新伊勢橋 (3.5km～5.6km)	約 2.1km	整備済み:約 0.1km 残工事 :約 2.0km
菅生橋～福井橋 (9.9km～10.5km)	約 0.6km	残工事 :約0.6km



東除川改修前



東除川改修後



3. 事業進捗の見込みの視点

H25年度～H29年度末までの実施状況(落堀川)

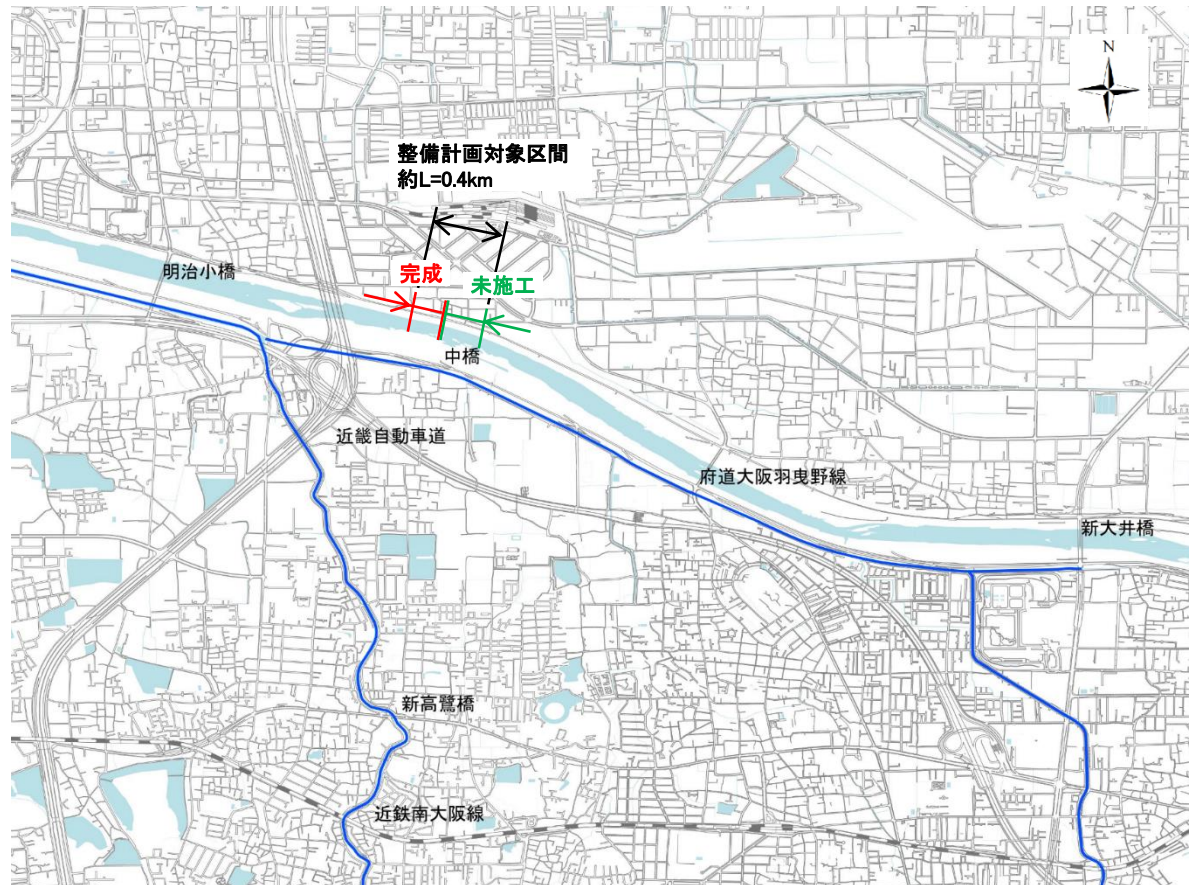
整備対象区間	整備延長	進捗延長
新落堀橋上流～中橋上流 (0.4km～0.8km)	約 0.4km	整備済み: 約 0.2km 残工事 : 約 0.2km



落堀川改修前



落堀川改修後



3. 事業進捗の見込みの視点（まとめ）

- 「大和川水系西除川ブロック河川整備計画（変更）（H28.10改定）」及び「大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3改訂）」に位置付けて事業を進めており、H29年度末で、事業の進捗は西除川下流区間で32%、西除川上流区間で15%、東除川で21%、落堀川で96%である。
- これまでも河道改修を推進し、改修した箇所治水安全度の向上に努めるなど、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。

河川	項目	前回評価時	今回評価	河川	項目	前回評価時	今回評価
西除川 (狭山池ダム下流区域)	①事業採択年度	①2013年度	①2013年度	東除川	①事業採択年度	①2013年度	①2013年度
	②事業着工年度	②2013年度	②2013年度		②事業着工年度	②2013年度	②2013年度
	③完成予定年度	③2032年度	③2032年度		③完成予定年度	③2022年度	③2022年度
	進捗率(全体)※	0%	32%		進捗率(全体)※	0%	21%
西除川 (狭山池ダム上流区域)	①事業採択年度	①2013年度	①2013年度	落堀川	①事業採択年度	②1986年度	②1986年度
	②事業着工年度	②2013年度	②2013年度		②事業着工年度	②1986年度	②1986年度
	③完成予定年度	③2042年度	③2042年度		③完成予定年度	③2022年度	③2022年度
	進捗率(全体)※	0%	15%		進捗率(全体)※	94%	96%

※事業費ベースでの進捗率

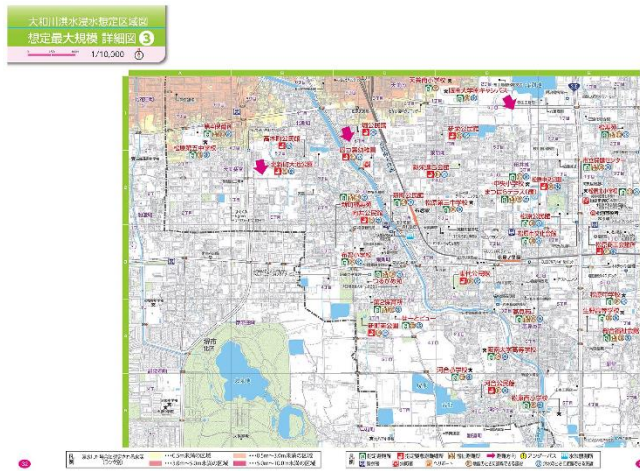
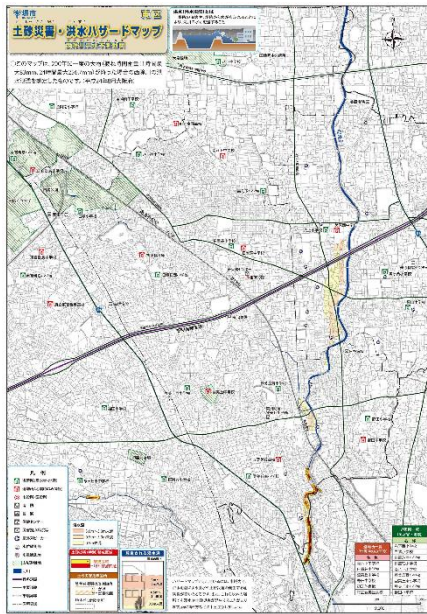
4. コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

- 河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減や、より効率的な対策等について今後検討を行う。

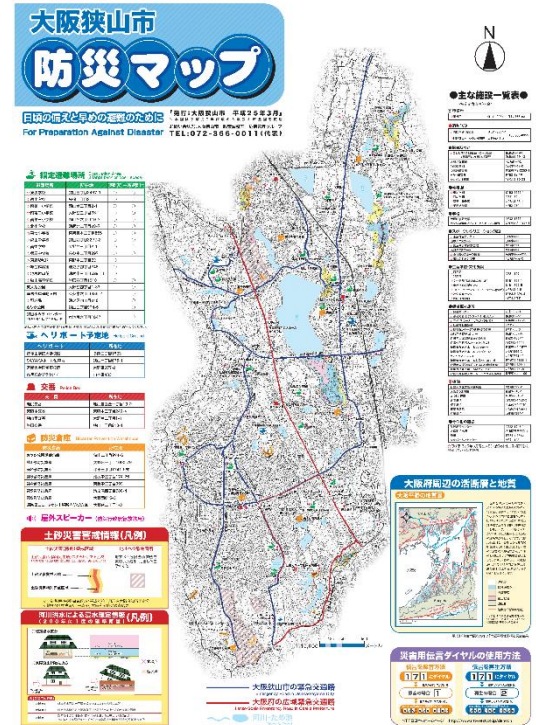
5. その他の特記事項

河川防災情報の提供

1) 各市町による洪水ハザードマップの作成

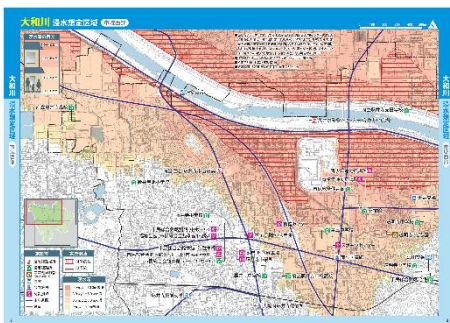


松原市「松原市総合防災ガイドマップ
大和川洪水浸水想定区域図」

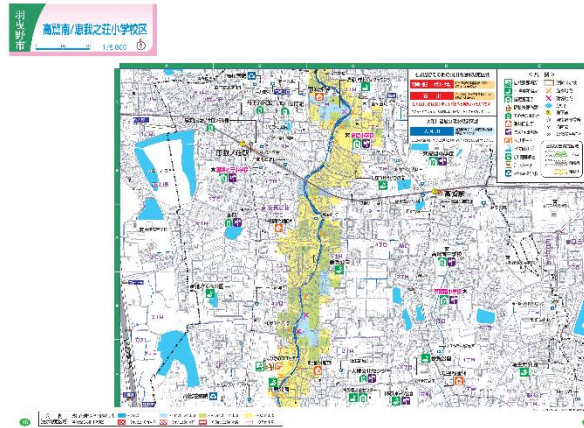


大阪狭山市「大阪狭山市防災マップ」

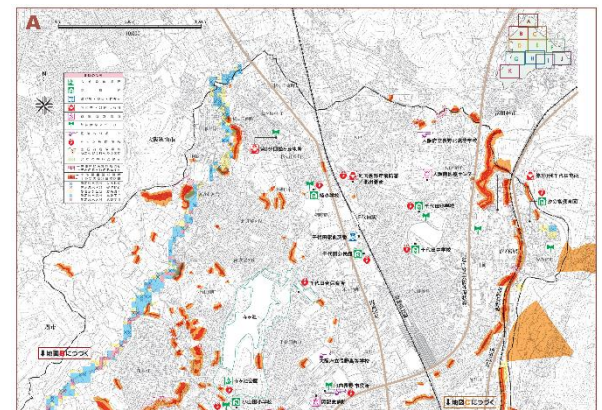
堺市「土砂災害・洪水ハザードマップ」



藤井寺市「藤井寺市防災ガイドブック
大和川・浸水想定区域」



羽曳野市「羽曳野市総合防災マップ」



河内長野市「災害ハザードマップ」

5. その他の特記事項

河川防災情報の提供

2) 洪水はん濫・浸水の危険性の周知

- 現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、西除川水系では洪水リスク表示図を開示。
- この表示図では、現況の河道で時間雨量50ミリ程度(約10年超過確率)、時間雨量65ミリ程度(約30年超過確率)、時間雨量80ミリ程度(約100年超過確率)、時間雨量90ミリ程度(約200年超過確率)降雨時の4パターンのはん濫解析結果を危険度(3段階)、最大浸水深(7段階)の2パターンで表示。



大阪府 洪水リスク表示図



各土木事務所での洪水リスク表示図の開示状況

5. その他の特記事項

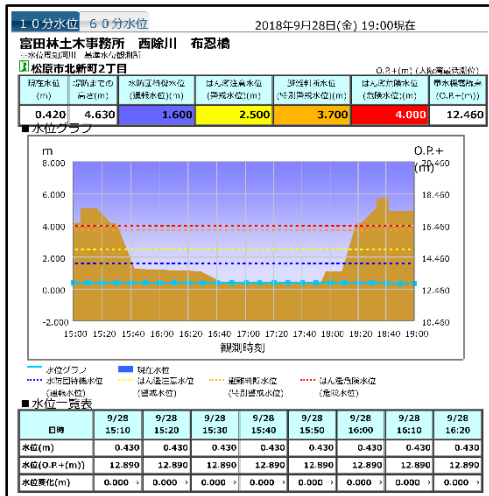
河川防災情報の提供

3) 大阪府などによる情報提供

- 大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町と連携し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供。

おおさか防災ネット

<http://www.cds.osaka-bousai.net/pref/index.html>



緊急情報、避難勧告・指示、地震津波情報などを提供しています。

大阪府河川情報

身近な河川の水位や雨量の情報を携帯電話で入手できます。
<http://www.cds.osaka-bousai.net/suibou/mobile/index.html>
 直接アクセスしてください。



防災情報メール

地域に発令された警報・注意報、避難勧告など、防災情報をメールで携帯にお知らせします。
tourouku@osaka-bousai.net



川の防災情報

雨雲の動きや全国の川の水位などの情報を携帯電話で入手できます。
<http://r.river.go.jp/>
 直接アクセスしてください。



河川カメラによる情報提供

大阪府都市整備部河川室 河川防災情報
<http://www.osaka-kasen-portal.net/suibou/index.html>

大阪府河川カメラ
<http://www.osaka-pref-rivercam.info/>

6. 対応方針（原案）

対応方針（原案）

事業の必要性等

- 現時点で再度、西除川、東除川、落堀川の費用対効果を算出したところ、 B/C は1以上であり、事業実施の妥当性を有する投資効果が確認できる。
- 西除川ブロックでは、未改修区間にて洪水リスクがあることから、地元市から河川改修事業等の進捗を望まれていること、流域内の人口・資産などは大きな変化はないが、災害時要配慮者である高齢者の割合が増えていること、近年、全国的に甚大な水害が頻発している状況などから地域の治水事業に対する関心も高く、事業の必要性はより高まっている。

事業の進捗の見込み

- 大和川水系西除川ブロック河川整備計画（H28.10改定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（H28.3改訂）に位置付けて事業を進めており、H29年度末で、事業の進捗は西除川下流区間で32%、西除川上流区間で15%、東除川で21%、落堀川で96%である。
- これまでも改修した箇所の流れ能力向上など、着実に成果を上げており、引き続き事業を継続することが妥当である。

コスト縮減や代替案立案等の可能性

- 河川整備計画に基づく整備を予定しているが、更なるコスト縮減やより効率的な対策等について引き続き検討を行う。



事業の継続